

留学報告⑧

平成 30 年 1 月 27 日

岩手大学人文社会科学部

地域政策課程 2 年

中田秀樹

【留学テーマ】「岩手発」で再生可能エネルギーの浸透を一欧州の先進事例に学ぶー

【留学期間】2017 年 10 月～2018 年 2 月

【留学先】ドイツ・スイス

こんにちは。再エネ・創エネ導入の先進的事例を学ぶため、ドイツ南西部のヴァルトキルヒという街に留学しております、中田秀樹と申します。

今回の近況報告の主な内容は、Waldkindergarten(訳・森の幼稚園)で研修させて頂いた時のレポートです。ドイツの環境教育の現場に携わることができた、貴重な経験でした。

約 5 か月の留学も残り 1 ヶ月を切りました。このレポートもあと数回となりますが、もしよければご覧いただければ幸いです。宜しくお願い致します。

《近況報告》森の幼稚園での研修

1 月中旬に、環境教育の現場を見せて頂くということで、森の幼稚園で研修をさせて頂きました。まず、森の幼稚園とは、1950 年代にデンマークで誕生した、「五感を使って自然を体感する」などをコンセプトとした幼稚園のことです。普段から森で遊ぶというところもあれば、普段は通常の幼稚園で、週に 1 度などのペースで森に通うなど、様々なケースがあります。

今回はヴァルトキルヒにある、ラヌンケルという森の幼稚園で研修をさせて頂きました。正規の先生が 2 人、ヘルプの方が 1 名、子供たちが 17 人という規模でした。保護者からなる NPO が運営母体となり、平日午前を中心に運営されていました。

ラヌンケルでの 1 日の流れは、以下のようになっています。

- ・ 9 時 園児たちが親に連れられ、集合場所に集まってきます。時間になるまでは、園庭にある簡易な遊具で遊んだり、集合場所にある小屋の中でお絵描きをしたりします
- ・ 9～10 時 朝の会をします。あいさつをし、出席確認をし、体を動かす簡単なゲーム(「だるまさんが転んだ」や「グリコ」に似ているものも)を行ったりもします。その中で、数字や曜日、文字など、通常の幼稚園で教わるのと同様のカリキュラムを学びます。また、自分で持ってきた朝食を食べる時間もあります(お弁当は基本敵に朝食で食べ、園に遅くまで残る子はお昼も持ってきます)
- ・ 10～11 時半 近くの森に遊びに行きます。基本的には先生は見守るだけで、子供たちが自ら遊びを見出して遊んでいます
- ・ 11 時半～12 時 集合場所に戻り、絵本の読み聞かせを行います。その後、朝と同じように遊びます
- ・ 12 時～ 親が子どもたちを迎えに来るので、それぞれ下校していきます

吹雪など悪天候の際には、安全のため基本的に集合場所にある小屋の中で過ごします。小屋の中にはい

くらかのおもちゃも用意してありますが、子供たちとしてはやはり森で遊ぶ方が楽しいようです。

研修の中では、子供たちと一緒に遊びながら、子供たちがどのように自然と触れ合っているのかを見学させて頂きました。斜面を滑り台にしたり、倒木を列車に見立てたりしながら遊んでいる子供たちはとても楽しそうでした。また、お絵描きの時間には馬の絵が人気で、一日に5~6頭くらいは馬の絵を描いた気がします。一度時間をとって頂いて、日本の絵本の読み聞かせをしたり、折り紙で紙飛行機を作って遊んだりもしました。

森で遊ぶ際には、やはり危険がつきものです。もちろん先生が注意して見ているので、あまりに危険な場所、目の届かない場所には行かないよう注意しますが、それでも怪我のリスクは普通の幼稚園よりは高いかもしれません。しかしそこで培った想像力や社会性は、成長してからも貴重な財産となります。実際、森の幼稚園に通った子供は、その後に学習面や身体能力など様々な面で成長がよいという調査結果もあり、その有用性を示しています。

日本でも近年、森の幼稚園と呼ばれる活動が現れ始めています。自然と触れ合い、自然から学んだ子供たちが増えていってほしい、と感じた研修でした。

今回の留学レポートは以上となります。お読みいただきありがとうございました。



↑子供たちが遊んでいた森。結構な急斜面でした

↓いつもお店屋さんごっこが行われている場所です。コケや樹皮といった「商品」を、左上の「レジ」に持って行って買います

